

プロ、アマ合同の日本野球規則委員会が1月8日に開催され、規則の改正について検討し、1月28日に2016年度の規則改正を正式に発表しました。

今回の改正では、2015年の「Official Baseball Rules」の改正を受け、規則条文構成が大幅に変更となりました。

またプレイングルールでは、本塁での衝突プレイに関して、ランナーが落球を誘うためにキャッチャーに接触することや、キャッチャーがボールを持たずに走路をふさぐことを禁じる規則が新たに制定されました。昨年アメリカでのルール改正に倣った変更で、ランナーの無闇な「体当たり」やキャッチャーの「ブロック」に規制がかかることとなります。

発表された内容は以下のとおりで、赤く表示した部分が改正された内容です。

現 行	改 正 後
	2015年のOfficial Baseball Rulesの改正に伴い、条文構成を大幅に改める。
<p>1.04 競技場は、次にしるす要領により、巻頭1、2、3図のように設定する。 まず、本塁の位置を決め、…以下略…</p> <p>【付記】(a)～(b)…略…</p> <p>【注】ファウルポールも白く塗らなければならないが、判別の便宜上、他の色のものを用いてもよい。ファウルラインを表示するのに、木材その他の堅い材料を用いてはならない。</p> <p>【軟式注】…略…</p>	<p>2.01 競技場は、次にしるす要領により、巻頭1、2、3図のように設定する。 まず、本塁の位置を決め、…以下略…</p> <p>【付記】(a)～(b)…略…</p> <p>【注】を削除する。</p> <p>【軟式注】…略…</p>
<p>1.13 一塁手の皮製グラブまたはミットの重量には制限がない。その大きさは、縦が先端から下端まで12 1/2 ㇰ (30.5 ㇰ) 以下、親指の叉状の部分からミットの外縁まで測った手のひらの幅が8 1/2 ㇰ (20.3 ㇰ) 以下、ミットの親指の部分と人さし指の部分との間隔は、ミットの先端で4 1/2 ㇰ (10.2 ㇰ) 以下、親指の叉状の部分で3 1/2 ㇰ (8.9 ㇰ) 以下でなければならない。…中略…または網を深くしてわな(トラップ)のようなあみ形にすることは許されない。</p>	<p>3.05 一塁手の皮製グラブまたはミットの重量には制限がない。その大きさは、縦が先端から下端まで12 1/2 ㇰ (30.5 ㇰ) 以下、親指の叉状の部分からミットの外縁まで測った手のひらの幅が8 1/2 ㇰ (20.3 ㇰ) 以下、ミットの親指の部分と人さし指の部分との間隔は、ミットの先端で4 1/2 ㇰ (10.2 ㇰ) 以下、親指の叉状の部分で3 1/2 ㇰ (8.9 ㇰ) 以下でなければならない。…中略…または網を深くしてわな(トラップ)のようなあみ形にすることは許されない。</p> <p>【注】我が国では、縦の大きさを先端から下端まで13 1/2 ㇰ (33.0 ㇰ) 以下とする。</p>
<p>1.14 一塁手、捕手以外の野手の皮製グラブの重量には制限がない。グラブの寸法を測るには、計測具または巻尺をグラブの前面またはボールをつかむ側に接触させ、外形をたどるようにする。その大きさは、縦が4本の指の各先端から、ボールが入る個所を通過してグラブの下端まで12 1/2 ㇰ (30.5 ㇰ) 以下、手のひらの幅は、人さし指の下端の内側の縫い目から、各指の下端を通過して小指外側の縁まで7 3/4 ㇰ (19.7 ㇰ) 以下である。…中略…伸びたりゆるんだりしたときには、正常の状態に戻さなければならない。</p>	<p>3.06 <u>                    </u>捕手以外の野手の皮製グラブの重量には制限がない。グラブの寸法を測るには、計測具または巻尺をグラブの前面またはボールをつかむ側に接触させ、外形をたどるようにする。その大きさは、縦が4本の指の各先端から、ボールが入る個所を通過してグラブの下端まで12 1/2 ㇰ (30.5 ㇰ) 以下、手のひらの幅は、人さし指の下端の内側の縫い目から、各指の下端を通過して小指外側の縁まで7 3/4 ㇰ (19.7 ㇰ) 以下である。…中略…伸びたりゆるんだりしたときには、正常の状態に戻さなければならない。</p> <p>【注】我が国では、縦の大きさを先端から下端まで</p>

13 ㊦ (33.0 ㊦) 以下とする。

一塁手は、グラブまたはミット**いずれも使用できる**ことを明確にした。

1. 16

プロフェッショナルリーグでは、ヘルメットの使用について、次のような規則を採用しなければならない。

(a)～(C) …略…

(d) 捕手が守備についているときは、捕手の防護用のヘルメットを着用しなければならない。

(e)～(f) …略…

3. 08

プロフェッショナルリーグでは、ヘルメットの使用について、次のような規則を採用しなければならない。

(a)～(C) …略…

(d) 捕手が**投球を受けるとき**は、捕手の防護用のヘルメット**およびフェイスマスク**を着用しなければならない。

(e)～(f) …略…

捕手が**投球を受けるとき**は、捕手の防護用ヘルメット**およびフェイスマスク**を着用しなければならないと修正

6. 00 打者

6. 01 打撃の順序…略…

6. 02 (a) …略…

(b) 打者は、投手がセットポジションをとるか、またはwindアップを始めた場合には、バッターボックスの外に出たり、打撃姿勢をやめることは許されない。

**ペナルティ** 打者が本項に違反した際、投手が投球すれば、球審はその投球によってボールまたはストライクを宣告する。

「**原注**」打者は、思うままにバッターボックスを出入りする自由は与えられていないから、打者が“タイム”を要求しないで、バッターボックスをはずしたときに、ストライクゾーンに投球されれば、ストライクを宣告されてもやむを得ない。

打者が打撃姿勢をとった後、ロジンバッグやパイナールバッグを使用するために、打者席から外に出ることは許されない。ただし、試合の進行が遅滞しているとか、天候上やむを得ないと球審が認めるときは除く。

審判員は投手がwindアップを始めるか、セットポジションをとったならば、打者または攻撃側チームのメンバーのいかなる要求があっても“タイム”を宣告してはならない。たとえ、打者が“目にごみが入った”“眼鏡がくもった”“サインが見えなかった”など、その他どんな理由があっても、同様である。球審は、打者が打者席に入ってからでも“タイム”を要求することを許してもよいが、理由なくして打者席から離れることを許してはならない。球審が寛大にしなければいけないほど、打者は打者席の中にいるのであり、投球されるまでそこにとどまっていなければならないということがわかるだろう。

5. 04 打者

(a) …略…

(b) (1) …略…

(2) 打者は、投手がセットポジションをとるか、またはwindアップを始めた場合には、バッターボックスの外に出たり、打撃姿勢をやめることは許されない。

**ペナルティ** 打者が本項に違反した際、投手が投球すれば、球審はその投球によってボールまたはストライクを宣告する。

「**原注**」打者は、思うままにバッターボックスを出入りする自由は与えられていないから、打者が“タイム”を要求しないで、バッターボックスをはずしたときに、ストライクゾーンに投球されれば、ストライクを宣告されてもやむを得ない。

打者が打撃姿勢をとった後、ロジンバッグやパイナールバッグを使用するために、打者席から外に出ることは許されない。ただし、試合の進行が遅滞しているとか、天候上やむを得ないと球審が認めるときは除く。

審判員は投手がwindアップを始めるか、セットポジションをとったならば、打者または攻撃側チームのメンバーのいかなる要求があっても“タイム”を宣告してはならない。たとえ、打者が“目にごみが入った”“眼鏡がくもった”“サインが見えなかった”など、その他どんな理由があっても、同様である。球審は、打者が打者席に入ってからでも“タイム”を要求することを許してもよいが、理由なくして打者席から離れることを許してはならない。球審が寛大にしなければいけないほど、打者は打者席の中にいるのであり、投球されるまでそこにとどまっていなければならないということがわかるだろう (5. 04b4 参照)。

以下はメジャーリーグだけで適用される〔原注〕の

打者が打者席に入ったのに、投手が正当な理由もなくぐずぐずしていると球審が判断したときには、打者がほんの僅かの間、打者席を離れることを許してもよい。

走者が塁にいるとき、投手がwindアップを始めた後、セットポジションをとった後、打者が打者席から出たり、打撃姿勢をやめたのにつられて投球を果たさなかった場合、審判員はボークを宣告してはならない。投手と打者との両者が規則違反をしているので、審判員はタイムを宣告して、投手も打者もあらためて“出発点”からやり直させる。

(c) 打者がバッタースボックス内で打撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審はストライクを宣告する。この場合はボールデッドとなり、いずれの走者も進塁できない。

このペナルティの後、打者が正しい打撃姿勢をとれば、その後の投球は、その投球によってボールまたはストライクがカウントされる。打者が、このようなストライクを3回宣告されるまでに、打撃姿勢をとらなかったときは、アウトが宣告される。

「原注」球審は、本項により打者にストライクを宣告した後、再びストライクを宣告するまでに、打者が正しい打撃姿勢をとるための適宜な時間を認める。

(d) マイナーリーグでは、以下の規則を実施する。

(1) 打者は打撃姿勢をとった後は、次の場合を除き、少なくとも一方の足をバッタースボックス内に置いていなければならない。この場合は、打者はバッタースボックスを離れてもよいが、“ホームプレートを囲む土の部分”を出てはならない。

(i) 打者が投球に対してバットを振った場合。

(ii) 打者が投球を避けてバッタースボックスの外に出ざるを得なかった場合。

(iii) いずれかのチームのメンバーが“タイム”を要求し認められた場合。

(iv) 守備側のプレーヤーがいずれかの塁で走者に対するプレイを企てた場合。

(v) 打者がバントをするふりをした場合。

(vi) 暴投または捕逸が発生した場合。

(vii) 投手がボールを受け取った後マウンドの土の部分から離れた場合。

(viii) 捕手が守備のためのシグナルを送るためキャッチャースボックスを離れた場合。

追加事項である。打者が打者席に入ったのに、投手が正当な理由もなくぐずぐずしていると球審が判断したときには、打者がほんの僅かの間、打者席を離れることを許してもよい。

走者が塁にいるとき、投手がwindアップを始めた後、セットポジションをとった後、打者が打者席から出たり、打撃姿勢をやめたのにつられて投球を果たさなかった場合、審判員はボークを宣告してはならない。投手と打者との両者が規則違反をしているので、審判員はタイムを宣告して、投手も打者もあらためて“出発点”からやり直させる。

以下はマイナーリーグで適用される〔原注〕の追加事項である。走者が塁にいるとき、投手がwindアップを始めた後、セットポジションをとった後、打者が打者席から出たり、打撃姿勢をやめたのにつられて投球を果たさなかった場合、審判員はボークを宣告してはならない。5.04 (b) (4) (A) に抵触する場合、審判員は自動的にストライクを宣告する。

(3) 打者がバッタースボックス内で打撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審はストライクを宣告する。この場合はボールデッドとなり、いずれの走者も進塁できない。

このペナルティの後、打者が正しい打撃姿勢をとれば、その後の投球は、その投球によってボールまたはストライクがカウントされる。打者が、このようなストライクを3回宣告されるまでに、打撃姿勢をとらなかったときは、アウトが宣告される。

「原注」球審は、本項により打者にストライクを宣告した後、再びストライクを宣告するまでに、打者が正しい打撃姿勢をとるための適宜な時間を認める。

(4) 削除

(A) 打者は打撃姿勢をとった後は、次の場合を除き、少なくとも一方の足をバッタースボックス内に置いていなければならない。この場合は、打者はバッタースボックスを離れてもよいが、“ホームプレートを囲む土の部分”を出てはならない。

(i) 打者が投球に対してバットを振った場合。

(ii) 打者が投球を避けてバッタースボックスの外に出ざるを得なかった場合。

(iii) いずれかのチームのメンバーが“タイム”を要求し認められた場合。

(iv) 守備側のプレーヤーがいずれかの塁で走者に対するプレイを企てた場合。

(v) 打者がバントをするふりをした場合。

(vi) 暴投または捕逸が発生した場合。

(vii) 投手がボールを受け取った後マウンドの土の部分から離れた場合。

(viii) 捕手が守備のためのシグナルを送るためキャッチャースボックスを離れた場合。

本条(c)にもかかわらず、打者が意図的にバッタースボックスを離れてプレイを遅らせ、かつ前記(i)～(viii)の例外規定に該当しない場合、球審は、投手の投球を待たずにストライクを宣告する。この場合はボールデッドである。もし打者がバッタースボックスの外にとどまり、さらにプレイを遅延させた場合、球審は投手の投球を待たず、再びストライクを宣告する。

【原注】球審は、打者の違反がちょっとした不注意であると判断すれば、その打者のその試合での最初の違反に対しては、自動的にストライクを宣告せずに、警告を与えることもできる。

球審は、本項により打者にストライクを宣告した後、再びストライクを宣告するまでに、打者が正しい打撃姿勢をとるための適宜な時間を認める。

(2) 打者は、次の目的で“タイム”が宣告されたときは、バッタースボックスおよび“ホームプレート”を囲む土の部分”を離れることができる。

(i) プレーヤーの交代

(ii) いずれかのチームの協議

【原注】審判員は、前の打者が塁に出るかまたはアウトになれば、速やかにバッタースボックスに入るよう次打者に促さねばならない。

打者が意図的にバッタースボックスを離れてプレイを遅らせ、かつ前記(i)～(viii)の例外規定に該当しない場合、**当該試合におけるその打者の最初の違反に対しては球審が警告を与え、その後違反が繰り返されたときにはリーグ会長が然るべき制裁を科す。**

【原注】を削除する。

【注】我が国では、所属する団体の規定に従う。

(B) 打者は、次の目的で“タイム”が宣告されたときは、バッタースボックスおよび“ホームプレート”を囲む土の部分”を離れることができる。

(i) プレーヤーの交代

(ii) いずれかのチームの協議

【原注】審判員は、前の打者が塁に出るかまたはアウトになれば、速やかにバッタースボックスに入るよう次打者に促さねばならない。

これまでマイナーリーグに適用されていたバッタースボックスルールが、今年からメジャーにも適用されることになりました。我が国では、所属する団体の規定に従う。

7.09

次の場合は、打者または走者によるインターフェアとなる。

(a)～(i) …略…

(j) 走者が打球を処理しようとしている野手を避けなかったか、あるいは送球を故意に妨げた場合。ただし、2人以上の野手が接近して、打球を処理しようとしており、走者がそのうち1人か2人以上の野手に接触したときには、審判員は、それらの野手のうちから、本規則の適用を受けるのに最もふさわしい位置にあった野手を1人決定して、その野手に触れた場合に限ってアウトを宣告する。(7.08b参照)

「原注」捕手が打球を処理しようとしているときに、捕手と一塁へ向かう打者走者とが接触した場合は、守備妨害も走塁妨害もなかったとみなされて、何も宣告されない。打球を処理しようとしている野手による走塁妨害は、非常に悪質で乱暴な場合にだけ宣告されるべきである。たとえば、打球を処理しようとしているからといって、走者を故意につまづかせるようなことをすれば、オブストラクションが宣告される。

6.01(a)

次の場合は、打者または走者によるインターフェアとなる。

(1)～(9) …略…

(10) 走者が打球を処理しようとしている野手を避けなかったか、あるいは送球を故意に妨げた場合。ただし、2人以上の野手が接近して、打球を処理しようとしており、走者がそのうち1人か2人以上の野手に接触したときには、審判員は、それらの野手のうちから、本規則の適用を受けるのに最もふさわしい位置にあった野手を1人決定して、その野手に触れた場合に限ってアウトを宣告する。

(5.09(b)(3)参照)

「原注」捕手が打球を処理しようとしているときに、捕手と一塁へ向かう打者走者とが接触した場合は、守備妨害も走塁妨害もなかったとみなされて、何も宣告されない。打球を処理しようとしている野手による走塁妨害は、非常に悪質で乱暴な場合にだけ宣告されるべきである。たとえば、打球を処理しようとしているからといって、走者を故意につまづかせるようなことをすれば、オブストラクションが宣告される。

捕手が打球を処理しようとしているのに、一塁手、投手が、一塁へ向かう打者走者を妨害したらオブストラクションが宣告されるべきで、打者走者には一塁が与えられる。  
(k) …略…

捕手が打球を処理しようとしているのに、**他の野手（投手を含む）**が、一塁へ向かう打者走者を妨害したらオブストラクションが宣告されるべきで、打者走者には一塁が与えられる。  
(11) …略…

一塁手、投手に限らず、いずれかの打球を守備していない野手が、一塁へ向かう打者走者を妨害した場合と改正した。

7.11～7.06…略…

6.01 (b)～(h) …略…

**(i) 本塁での衝突プレイ**

(1) 得点しようとしている走者は、最初から捕手または本塁のカバーに来た野手（投手を含む、以下「野手」という）に接触しようとして、または避けられたにもかかわらず最初から接触をもくろんで走路から外れることはできない。もし得点しようとした走者が最初から捕手または野手に接触しようとしたと審判員が判断すれば、捕手または野手がボールを保持していたかどうかに関係なく、審判員はその走者にアウトを宣告する。その場合、ボールデッドとなって、すべての他の走者は接触が起きたときに占有していた塁（最後に触れていた塁）に戻らなければならない。走者が正しく本塁に滑り込んでいた場合には、本項に違反したとはみなされない。

**【原注】**走者が触塁の努力を怠って、肩を下げたり、手、肘または腕を使って押したりする行為は、本項に違反して最初から捕手または野手と接触するために、または避けられたにもかかわらず最初から接触をもくろんで走路を外れたとみなされる。走者が塁に滑り込んだ場合、足からのスライディングであれば、走者の尻および脚が捕手または野手に触れる前に先に地面に落ちたとき、またヘッドスライディングであれば、捕手または野手と接触する前に走者の身体が先に地面に落ちたときは、正しいスライディングとみなされる。捕手または野手が走者の走路をブロックした場合は、本項に違反して走者が避けられたにもかかわらず接触をもくろんだということを考える必要はない。

(2) 捕手がボールを持たずに得点しようとしている走者の走路をブロックすることはできない。もし捕手がボールを持たずに走者の走路をブロックしたと審判員が判断した場合、審判員はその走者にセーフを宣告する。前記にかかわらず、捕手が送球を実際に守備しようとして走者の走路をふさぐ結果になった場合（たとえば、送球の方向、軌道、バウンドに反応して動いたような場合）には、本項に違反したとはみなされない。また、走者がスライディングすることで捕手との接触を避けられたならば、ボールを持たない捕手が本項に違反したとはみなされない。

本塁でのフォースプレイには、本項を適用しない。



	<p><b>【原注】</b> 捕手が、ボールを持たずに本塁をブロックするか（または実際に送球を守備しようとしていないとき）、および得点しようとしている走者の走塁を邪魔するか、阻害した場合を除いて、捕手は本項に違反したとはみなされない。審判員が、捕手が本塁をブロックしたかどうかに関係なく、走者はアウトを宣告されていたであろうと判断すれば、捕手が走者の走塁を邪魔または阻害したとはみなされない。また、捕手は、滑り込んでくる走者に触球するときには不必要かつ激しい接触を避けるために最大限の努力をしなければならない。滑り込んでくる走者と日常的に不必要かつ激しい接触（たとえば膝、レガース、肘または前腕を使って接触をもくろむ）をする捕手はリーグ会長の制裁の対象となる。</p> <p><b>【注】</b> 我が国では、本項の（１）（２）ともに、所属する団体の規定に従う。</p>
--	---

走者が落球を誘うために意図的に捕手や野手に接触したり、ボールを持たない捕手が走者の走路をブロックしたりすることを禁じる。

<p>6.06 次の場合、打者は反則行為でアウトになる。</p> <p>(a)～(c) …略…</p> <p>(d) 打者が、いかなる方法であろうとも、ボールの飛距離を伸ばしたり、異常な反発力を生じさせるように改造、加工したと審判員が判断するバットを使用したり、使用しようとした場合。</p> <p>このようなバットには、詰めものをしたり、表面を平らにしたり、釘を打ち付けたり、中をうつろにしたり、溝を付けたり、パラフィン、ワックスなどでおおって、ボールの飛距離を伸ばしたり、異常な反発力を生じさせるようにしたものが含まれる。</p> <p>打者がこのようなバットを使用したために起きた進塁は認められないが、アウトは認められる。</p> <p>打者はアウトを宣告され、試合から除かれ、後日リーグ会長によってペナルティが科せられる。</p> <p>「原注」打者がこのようなバットを持ってバッタースボックスに入れば、打者は規則違反のバットを使用した、あるいは使用しようとしたとみなされる。</p> <p>「注」アマチュア野球では、このようなバットを使用した場合、バッターにはアウトを宣告するにとどめる。</p>	<p>6.03(a) 次の場合、打者は反則行為でアウトになる。</p> <p>(1)～(3) …略…</p> <p>(4) 打者が、いかなる方法であろうとも、ボールの飛距離を伸ばしたり、異常な反発力を生じさせるように改造、加工したと審判員が判断するバットを使用したり、使用しようとした場合。</p> <p>このようなバットには、詰めものをしたり、表面を平らにしたり、釘を打ち付けたり、中をうつろにしたり、溝を付けたり、パラフィン、ワックスなどでおおって、ボールの飛距離を伸ばしたり、異常な反発力を生じさせるようにしたものが含まれる。</p> <p>打者がこのようなバットを使用したために起きた進塁は認められない（<b>バットの使用に起因しない進塁、たとえば盗塁、ボーク、暴投、捕逸を除く</b>）が、アウトは認められる。</p> <p>打者はアウトを宣告され、試合から除かれ、後日リーグ会長によってペナルティが科せられる。</p> <p>「原注」打者がこのようなバットを持ってバッタースボックスに入れば、打者は規則違反のバットを使用した、あるいは使用しようとしたとみなされる。</p> <p>「注」アマチュア野球では、このようなバットを使用した場合、バッターにはアウトを宣告するにとどめる。</p>
<p>4.12 サスペンデッドゲーム（一時停止試合）</p> <p>(a) 試合が、次の理由のどれかによって打ち切られた場合、後日これを完了することを条件としたサスペンデッドゲームとなる。</p> <p>(1)～(2) …略…</p> <p>(3) 照明の故障、またはホームクラブが管理している競技場の機械的な装置の故障。（競技場の機械的</p>	<p>7.02 サスペンデッドゲーム（一時停止試合）</p> <p>(a) 試合が、次の理由のどれかによって打ち切られた場合、後日これを完了することを条件としたサスペンデッドゲームとなる。</p> <p>(1)～(2) …略…</p> <p>(3) 照明の故障、またはホームクラブが管理している競技場の機械的な装置（たとえば開閉式屋根、自</p>

<p>な装置には、自動キャンバス被覆装置とか排水設備を含んでいる。） (4)～(6) …略…</p>	<p>動キャンバス被覆装置などの排水設備)の故障(オペレーターの過失を含む)。 (4)～(6) …略…</p>
--	---

サスペンデッドゲームとなる事由にオペレーターのエラーを追加した。

<p>4. 16 (c)球審が、試合を一時停止した後、その再開に必要な準備を球場管理人に命じたにもかかわらず、その命令が履行されなかったために、試合再開に支障をきたした場合は、その試合はフォーフィッテッドゲームとなり、ビジティングチームの勝ちとなる。  「注」アマチュア野球では、本条を適用しない。</p>	<p>7. 03 (c)球審が、試合を一時停止した後、その再開に必要な準備を球場管理人に命じたにもかかわらず、その命令が<b>意図的に</b>履行されなかったために、試合再開に支障をきたした場合は、その試合はフォーフィッテッドゲームとなり、ビジティングチームの勝ちとなる。  「注」アマチュア野球では、本条を適用しない。</p>
---	--